

復興・発展を支える人づくりを目指して ～「いわての復興教育」の取組から～

岩手県教育委員会事務局
学校教育室
森本 晋也

- I はじめに
- II 「いわての復興教育」について
- III 本県における防災教育の取組について

はじめにー自然の二面性と人々の知恵・文化ー

豊かな自然の恵み・文化



時に人々を襲う災害



自然と共存する人々の知恵・文化

あの日の時 人間の想像を遙かに超える自然の力

平成23年3月11日(金)午後2時46分

東北地方太平洋沖地震(東日本大震災津波)発生

東日本大震災

発生日時	2011/3/11
震源地	三陸沖
震源の深さ	24km
マグニチュード	9.0
最大震度	震度7
地震の種類	海溝型地震
死者数	5,061 (4/30現在)
行方不明者数	1,150 (4/30現在)
負傷者数	209 (4/30現在)

前代未聞の甚大な被害

尊い命
日常の営み
幸せな時間と空間



一つ一つ前へ 涙、嘆き、悲しみを乗り越え、「オールいわて」で未来に生きる

被害の少ない地域
被害の大きい地域への思い・痛み

命を守るための知恵
家族との信頼
人とのつながり
生きていく上での大切な学び
日常生活の大切さ
励まし、支え合うことに
未来がある

被害の大きな地域
動揺・衝撃
心のダメージ

家族との絆
地域社会の連携
の大切さ

「自分にできることは何か」の問いかけ

希望
希望
希望

ひとづくり

つらい経験にも教育的価値



震災の経験を子ども達がどう受け止め、これからどう生きていくべきなのか?

震災・津波を乗り越え、未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手県を支えていける子どもたちの育成を目指す。

そのために

各学校でふさわしい復興教育に取り組む

震災・津波に伴う経験はそれぞれ貴重な教育的価値をもっている

- ・新しい防災教育
- ・体験(教訓)から学ぶ教育活動

被害の多寡によらず、県内全ての子ども一人一人が震災津波と向き合い、自分自身を見つめ、他者や社会とのかかわり考えることが重要

平成24年度



平成25年度



- 「学校防災・災害対応指針」
- 「県教育委員会危機管理マニュアル」【改訂版】(H24.3策定)

津波警報発表中、又は、2次災害のおそれのある場合、児童生徒の保護者への引渡しは行わない。



「いわての復興教育」の推進 5つのポイント

①【目的】 「いわての復興教育」の目的を整理しました。

【震災前からの目的】 「知・徳・体」を備え調和のとれた人間形成

「ひとづくり」

補完・充実

【「いわての復興教育」の目的】 郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成

「復興・発展を支えるひとづくり」

【根底】

震災津波を乗り越えて、未来を創造していくために、10年後、20年後の岩手の復興・発展を担う子どもを育成すること。

「いわての復興教育」の推進 5つのポイント

②【教育的価値】 震災津波の体験からクローズアップされた教育的価値を明らかにしました。

震災津波の経験を後世へ語り継ぎ、自らが考え、未来志向の社会をつくる必要がある。震災津波の体験からクローズアップされた教育的価値を3つに分類し、テーマを付ける。

- 1 生命や心について【いきる】
- 2 人や地域について【かかわる】
- 3 防災や安全について【そなえる】

「いわての復興教育」の教育的価値

「いわての復興教育」の推進 5つのポイント

③【教育的価値一覧表】 3つの教育的価値と具体の21項目からなる教育的価値一覧表を作成しました。

「いわての復興教育」における3つの教育的価値と具体の21項目

教育的価値一覧表	
3つの教育的価値	具体の21項目
1 生命や心について【いきる】 震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康	①～⑦
2 人や地域について【かかわる】 震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画	⑧～⑭
3 防災や安全について【そなえる】 震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全	⑮～⑳

3つの教育的価値	具体の21項目
1 震災津波の経験を踏まえた生命の大切さ・心のあり方・心身の健康	①【かけがえない生命】 全ての生命は、かけがえないものであることを実感し、大切に。 ②【自然との共存】 自然の恵みや美しさに感動する心と畏敬の念をもち、自然と共に生きることについて考える。 ③【価値ある自分】 どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。 ④【夢や希望の大切さ】 夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、つらく厳しい状況を乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑤【やり抜く強さ】 救援活動などに従事した人々の働きと苦勞を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。 ⑥【心の健康】 つらいことや悲しいこと、環境からくるストレスなどを感じた時の対処方法を学び、自分自身で心の健康を維持する。 ⑦【体の健康】 周囲の環境を理解し、状況に合わせて安全に気をつけて遊んだり、運動したりする。

3つの教育的価値	具体の21項目
2 震災津波の経験を踏まえた人の絆の大切さ・地域づくり・社会参画	⑧【家族のきずな】 安心して生きていくための生活基盤として、家族の絆や家族の一員としての喜びを実感する。 ⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。 ⑩【県内外や海外の人々とのつながり】 苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し、共に協力することの大切さを実感する。 ⑪【ボランティア】 他の人や地域社会に役立つことを自分から進んで実践し、他人の喜びを自分の喜びとして共感する。 ⑫【自分と地域社会】 自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりがある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】 震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きしたまちづくりにかかわる。

3つの教育的価値	具体の21項目
3 震災津波の経験を踏まえた自然災害の理解・防災や安全	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 ⑯【自然災害発生メカニズム】 自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。 ⑰【自然災害の歴史】 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災・減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく。 ⑱【自然災害のライフラインへの影響】 震災津波の被害による教訓をもとに、水、電気、ガス、灯油、ガソリン、道路などの供給・輸送システムやその大切さを理解し、ライフラインが止まったときに対応できるようにする。 ⑲【災害時における情報の収集・活用・伝達】 震災津波の被害による教訓をもとに、情報の大切さ、情報の収集、選択・判断、発信の方法などについて理解し、活用できるようにする。 ⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。 ㉑【身を守り、生き抜くための技能】 危機を予測(回避)し、災害や事故に直面した際に自らの体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身に付ける。(応急手当や心肺蘇生法、食中毒防止、衣食住に関すること、放射線対策等)

いわての復興教育副読本『いきる かかわる そなえる』

※ 3つの教育的価値と具体の21項目に対応



小学校・低学年用



小学校・高学年用



中学校用

副読本の構成

【基本】

- 3. 11を忘れさせないため、風化させないための教材。
- 子どもたちの発達段階や学習状況等に対応した教材。
- 「いわての復興教育」プログラム[改訂版]に連動。
- 3つの教育的価値と具体の21項目に対応。

【いきる】

具体の21項目の①～⑦に対応した教材をアランダムに掲載。

【かかわる】

具体の21項目の⑧～⑭に対応した教材をアランダムに掲載。

【そなえる】

具体の21項目の⑮～⑳に対応した教材を系統的に掲載。

1「震災津波の被害の様子と歴史」→2「自然のメカニズムと被害の特徴」→3「危険予測と判断や行動・訓練」→4「状況に応じた対応」→5「社会への影響・家庭での備え・地域での取り組み」

副読本の内容(小中学校)【いきる】2自然との共存

しぜんといきる
小学校・低学年【いきる②】

しぜんとともに

森の防潮堤で命を守る
中学校【いきる②】

森の防潮堤で命を守る 森の防災プロジェクト

海人の心
小学校・高学年【いきる②】

副読本の内容(小学校)【かかわる】【そなえる】

危険を予測・回避
小学校・低学年

地域への提言
小学校・高学年

家庭での取組
小学校・低学年

副読本の内容(中学校)【かかわる】【そなえる】

そのとき、どうする?
中学校

災害時の情報と心理
中学校

自らかかわる
中学校

地域を知る
中学校

平成26年度「いわての復興教育」の推進について 学校教育変革復興教育担当

25年度の取組

- I 「学校支援」の実施
- II 「研修会等」の支援
- III 「副読本」の作成・配布
- IV 「防災教育」の推進

26年度の重点

- I 「いわての復興教育」プログラム[改訂版]に基づいた教育活動の推進
- II 副読本(小中学校用)の活用
- III 防災教育の推進

1「学校支援」

- ①推進校の取組支援

2「研修会」

- ①校内研究会への対応
- ②果敢教育研究発表会
- ③各種研修会への対応

3「副読本」

- ①活用に関する研修会
- ②活用に関する研修会

4「防災教育」

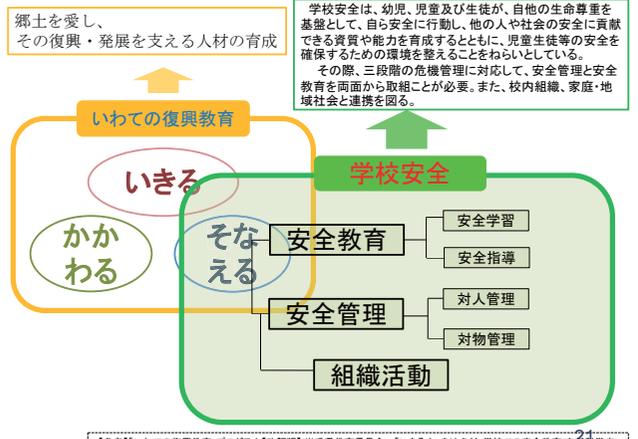
- ①防災教育研修会の推進
- ②防災教育に係る字

5「推進体制」

- ①学校
- ②家庭
- ③行政

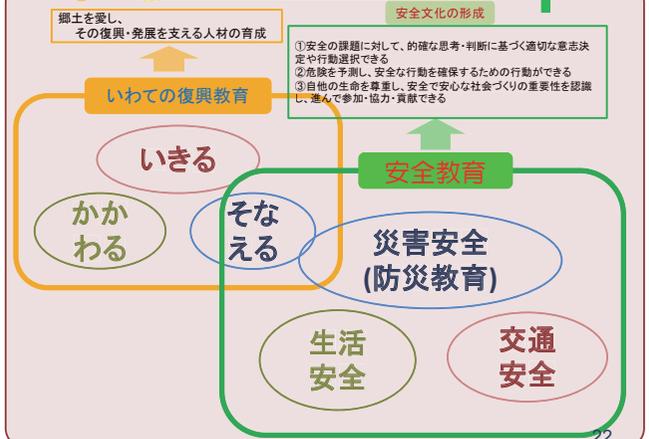
子ども

「いわての復興教育」と防災教育



【参考】「いわての復興教育」プログラム[改訂版](岩手県教育委員会)、「いきる力」をほくむ(学校での安全教育[文藝春秋])

「知・情・体」を備えた積極的防災人材の育成



学校・地域の防災力の向上

防災教育

- (1) 児童生徒が自然災害の危険に際して、**他の命を守り抜くために、危険を予測・回避**する力を、「主体的に行動する態度」の育成
- (2) **安全連携して、くりに「主体的に参画する」**ための学校防災教育と防災管理を**一体的に推進していく**
- (3) **安全連携して、くりに「主体的に参画する」**ための学校防災体制の構築・強化

防災管理

組織活動

- (4) 学校・家庭・地域・関係機関が連携した防災体制の確立、防災教育の推進

① 県防災教育研修会 4月

各校・各地域にて具体的な取組・実践

県・県教委による推進・支援

- ② 「いわての復興教育」推進事業
 - ・各学校での推進、支援 副読本の配付・活用
- ③ 防災教育に係る学校訪問事業
 - ・小・中・県立学校(50年で番替訪問)
 - ・「学校防災・災害対応指針」(県教育委員会危機管理マニュアル)活用のアドバイス
- ④ 実践的防災教育総合支援事業
 - ・防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業
 - ・学校防災アドバイザーの活用事業(専門家の派遣)
 - ・災害ボランティア活動の推進・支援事業
- ⑤ 県総合防災訓練における取組
 - ・八幡平市、滝沢市、雫石町において実施(学校・地域の連携)
- ⑥ 県総合教育センターでの研修
 - ・副読本の活用研修(「いきる」「かかわる」「そなえる」)
- ⑦ 防災教育教材(岩手県・岩手大学)の活用
 - ・小・中学校、特別支援学校(小・中学部)に配付

⑧ 防災教育実践交流会 2月 24

兼 防災教育研究発表会・防災教育分科会
実践的防災教育総合支援事業成果発表会

県教委・県総合防災室の連携事業

実効性のある教育を!!

- ▲ 大人が逃げない→子ども逃げない
- 「逃げる」を**内発的**に持ち、**行動化**できる。
- 思い・熱意が動かし。
- 子どもたちを育む**環境**をつくる。
- ソーシャルイノベーション(社会変革)のキーワードは、「**共感**」である。
- 「語り継ぐ」→「**やり続ける**」が大切である。



講師 群馬大学片田教授

中学校区を中心に

小・中・県立学校、市町村教委・市町村(防災担当)で、連携の課題、解決策を協議する。



H26県防災教育研修会 イメージトレーニング型訓練の内容

付与情報(前提条件)A

9月1日(月)午後12時30分[定時制は、18時30分]、雨がつよく降ってきました(20mm/h)。大雨警報発表。あなたは、職場にいます。児童・生徒等は、学校です。



付与情報(前提条件)B

9月1日(月)14時30分[定時制は、20時30分]、短時間のうちに大雨(78mm/h)。大雨(土砂災害)、洪水警報発表。停電。児童・生徒は、学校にいます。

イメージトレーニング型訓練
与えられた情報から災害対応をシミュレーションする。

- 【成果】
- 連携の意味・意義を学ぶことができた。
 - 三者で話し合うことで、課題が明確になった。(防災担当者の参加が有意義)
 - 事前のシミュレーションの大切さが分かった。

【課題】

▲市町村防災担当者の参加市町村数	
H25	23/33市町村
H26	22/33市町村

学校への支援 防災教育に係る学校訪問から

葛巻小研修「地域のハザードを知る」

長内小研修「危機管理マニュアルの見直し」



- 地震発生時、街はどうなる？
 - ・落下物、塀の倒壊
 - ・家屋の倒壊
 - ・火災の発生
 - ・土砂崩れ
- 大雨発生時は？
 - ・浸水箇所
 - ・土砂崩れの発生
- 児童の住居は？安全は？
- 通学路の安全確保は？
- 学校の対応は？

「こころのサポート」と防災教育 [野田村立野田中学校]

【体験や思いを語り合う】
「つらい体験を思い出す防災の学習だからこそ、こころのサポート併せて少しづつチャレンジすることがポイント」

被災地 心のサポート

野田村立野田中学校 野田中生に防災授業

体験や思いを語り合う28

防災週間とこころのサポート [大槌町立吉里吉里中学校]

- 【こころの授業】(スクールカウンセラー)
 - ・心構え、リラクゼーション
- 【自分の命を守る】(慶應義塾大 大木研究室)
 - ・災害発生時の判断・行動を考える。
- 【他の命を守る】(日本赤十字社)
 - ・応急手当講習会(心肺蘇生法、応急手当)
- 【小中合同避難訓練】(関係機関)
 - ・登校中、自分で判断し安全に避難する。小学生への対応。

防災週間の前後に、**防災アンケート**(避難訓練、警報等のサイレンなどが実施し、生徒たちの心のストレスの**原因を分析**する。

次回以降の取組に生かす。

副読本を活用した学習(危険予測・危険回避)

危険をチェックしよう

もし、給食中に大きな地震が起こったら、どうしますか。すばやく身の安全を確保しなくてはなりません。



危険!! 大きな危険 小さな危険

安全! ☆ 安全 より安全

危険を予測する

災害から身を守るには、危険を予測し、より安全な行動を取らなくてはなりません。

3つのない 「おちてこない」「たおれてこない」「移動してこない」

ショート訓練をやってみよう

先生に緊急地震速報を聞かしてもらい、それを聞いたら、すばやく安全なところにかくれます。

(出典：徳島大学 大木学術院 防災教育センター)

危険予測・危険回避の学習 [宮古市立川井小学校・宮古小学校]

大きな揺れがあったとき、どこが危険だろうか?



ここにも危険なところがある。



どうしようと思ったら、身を守ることができかな?



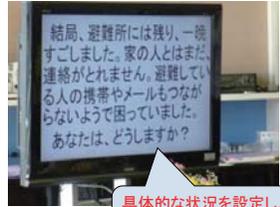
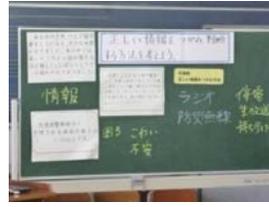
ろうかや昇降口だったら、どこが危険だろうか?



「そのとき、どうする?」(復興教育副読本 小学校高学年用)

副読本 page with illustrations and text about disaster response. Includes sections like 'そのとき、どうする?' and 'もしも地震が起きたらどうする?'.

「正しい情報を把握し、判断する」 [宮古市立宮古小学校公開]



具体的な状況を設定し、どう判断したらよいか考え、話し合う。



学校・家庭の協働による防災安全マップづくり [遠野市立錦沢小学校]

Newspaper clipping about a safety map project. Title: '安全安心白ら守る 通学路点検、マップに 校内に配布も 地区配布も'. Includes a photo of children on a path.

6月防災研修会(DIG) (PTA・教職員) 7月児童の通学路点検 8月防災安全マップ製作

「岩手日報」 (2014年7月4日)より

岩手・宮城内陸地震の風化を防ぐ [一関市立本寺小学校]

Report on a field trip to an old festival bridge. Title: '「6.14」記憶を後世に!'. Includes photos of students and a bridge.

旧祭時大橋の見学・学習、土砂災害、地震発生時の対応について学習

「広報いちのせき7.15」より

H25防災教育の学校訪問から [一関立本寺小学校]

「ワンデー」(家庭防災の日)の取組

[目的] 学校での安全指導と合わせ、家庭での災害安全の意識を高める。

●6.14の体験から伝えたいこと

●学校の防災学習について

おうちの人と話し合って、おうちの人に書いてもらいましょう。

6・14の体験から学んだことや伝えたいこと、忘れてはいけないこと...

家庭を巻き込んでいく。 → 次は、地域を巻き込んでいく

どのように行動するか考え・判断する

H24復興教育推進校 [大船渡市立越喜来小学校]

Disaster response plan document with sections for '導入', '展開', and '総括'.

急下校中に大津波警報が出ました。そのとき、あなたはどのようにしますか?



グループごとに、どの場所に、どのように逃げればよいか考え、話し合う。



家庭・地域を巻き込んだ取組

H24推進校 H24復興教育推進校 [大船渡市立復興喜来小学校]

消防署、消防団、警察、地域の方々と共に避難訓練を行う。

学習プリントに、保護者の感想欄を設けて、学習後に記入してもらい、「防災おきらい通信」で紹介する。

防災おきらい通信

「各家庭で話し合う機会」になり、学校と家庭の連携を深める手段にもなっている。
 ・家庭や地域と連携し、防災教育の充実を図っている。

38

H25防災教育の学校訪問から [久慈市長内小学校] 地域との連携

学校の課題

- ①いつ、どこで起きるか分からない災害
→下校、家庭・地域にいるときの避難場所・方法
- ②学校から避難するときの安全 (交通量の多い国道)
→災害時の避難誘導の必要性
- ③避難場所 (公民館) での対応
→避難場所での備蓄、避難用品

地域との連携の必要性・重要性

災害時の支援協定へ

- ・久慈市長内小学校
- ・長内生き生き振興協議会
- ・長内地区町内会13組織

長内小、町内会と協定

災害時の安全確保図

久慈市教育委員会・長内小学校提供資料より 39

H25防災教育の学校訪問から [久慈市長内小学校] 地域との連携

支援協定の内容

- ① 災害時の児童の避難誘導の協力及び避難場所の提供
- ② 避難施設への避難用品の保管及び備蓄
- ③ 学校の避難訓練への協力及び住民参加
- ④ 学校及び各町内会の情報共有
- ⑤ 避難経路及び避難場所の安全点検
- ⑥ その他

下校時避難訓練の実施(6月3日)

下校途中、地震が発生 ランドセルを頭にかけて身を守る児童

地域の方々に見守られながらの避難

地域の方々(下長内)

避難場所の確認

久慈市教育委員会・長内小学校提供資料より

H25防災教育の学校訪問から [久慈市長内小学校] 成果

○事前指導をきちんと行うことで、正しい避難行動をとることができたこと。
 ○真剣な態度で訓練に臨み、落ち着いて行動することができたこと。
 ○高学年が低学年の世話をする姿がみられ、みんなで安全に避難するという意識が高まったこと。
 ○スクールガードさんをはじめ、多くの地域の方々の参加を得ることで、地域の方々と防災について考える機会になったこと。(学校・地域)
 ○地域の中で子どもたちだけがいた場合、地域の方々が子どもたちを安全に避難を誘導しようという意識が高まったこと。(地域)
 ○地域の方々も子どもたちと一緒に避難することで、地域の方々の防災訓練の機会にもなった。(地域)

課題(改善)

○地域の方々と初めての取組であったので、もっと詳細に地域の方々に説明したり、意見を吸い上げるしくみづくりを行うこと。
 ○訓練において、地域の方々が主体的に取り組むような場面を工夫すること。
 ○スクールガードとの協力体制をさらに強化し、地域の防災力を生かした訓練のあり方を検討していくこと。

災害時支援協定書

久慈市教育委員会・長内小学校提供資料より

H25 大槌小 避難訓練 [大槌町立大槌小学校] 地域・関係機関と連携した避難訓練

下校時の避難訓練

下校の手段(放課後)

- ・徒歩
- ・スクールバス
- ・学童クラブ、子どもセンター

○町役場・町教育委員会
 ○スクールバス運行会社
 ○消防団
 ○保安員
 ○学童クラブ、子どもセンター
 ○地域コーディネーター
 ○警察、消防

連携した訓練をやってみて、いろいろな課題が見えてくる。次は、家庭を巻き込んで訓練を行いたい。(菊池校長先生より)

「家族でそなえる」(小・低) 「地域の防災訓練への参加」(小・高)

家族で地震にそなえましょう

地域での避難訓練に参加しよう

43

「家族といっしょに防災マップ」(小・低) 「地域の防災訓練への参加」(中学)

家族といっしょに防災マップをつくらう

地域での防災訓練に参加しよう

いっしょに避難訓練を行う

できますゼッケン

44

災害ボランティア活動 / 学校防災アドバイザー活用

【八幡平市立西根中学校】

- 津波体験者(元金石東中松村先生)
- ボランティア活動指導者の講話
- 被災地の企業見学、復興支援ボランティア団体との交流
- 仮設住宅の方々と交流 ○環境美化活動

【県立雲石高校】

気象会の方を講師に、大雨災害時の避難について、いつ、どのように行動すればよいか、話し合う。

【県立気仙光陵支援学校】

避難訓練での職員、保護者引渡しの方法などを、アドバイザーの指導を受けながら、見直す。

45

H26 岩手県総合防災訓練における新たな訓練項目

新たな訓練項目

「学校・家庭・地域が連携した防災学習及び防災訓練」

- 期日 平成26年8月30日(土)
- 想定 岩手山噴火及び大雨による土石流の発生
- 参加者 98機関、約6,000人

【参加校】

H26 八幡平市(頭山小学校) 雲石町(上長山小学校) 滝沢市(一本木小学校、柳沢小中学校、滝沢第二中学校)

H27 奥州市・金ヶ崎町

46

八幡平市立田頭小学校・雫石町立上長山小学校

- 事前学習(盛岡地方気象台)
- 保護者・児童と一緒に、避難所(学校含む)へ避難する。
- 避難後、市の防災訓練に参加・体験。



- 児童・保護者・地域の方々が一緒に、防災について学ぶ。
- 避難所で、保護者への引渡し訓練を実施。

滝沢市立柳沢小中学校の取組

県総合防災訓練 訓練項目「学校・家庭・地域が連携した防災学習・防災訓練」

- 岩手山登山[1学期]
- 事前学習[8月20日]
(火山噴火のメカニズム)
(自助・共助)
- 防災講話[8月21日]
(GT:気象台)
- 防災訓練[8月30日]

復興教育副読本・防災教育DVD(岩手県)を活用して、事前学習を行い、質問を考える。



- 中学校
- 「そなえる」(P58~68)
 - ・災害時の情報と心理
 - ・地域の避難訓練に参加
 - 「かかわる」
 - ・避難所になった高校で
 - ・できますゼッケン
 - ・復旧にあらず、復興なり

- 小学校
- 「そなえる」
 - ・火山噴火のしくみと被害
 - ・身の守り方 他



滝沢市立柳沢小中学校の取組

防災講話[8月21日] (GT:気象台)



- 【講話の内容】
- メカニズム ○火山噴火による恵み ○地域のハザード ○避難で大事なこと ○ふるさと、岩手山への思い

目的意識をもって参加。多くの質問が出される。

- 小学校(質問の内容)
- ・エレストも活火山?
 - ・溶岩流に勝てる鉄は?
 - ・溶岩流のスピードは?
 - ・地球の核の温度はどうやって測るの? など



- 中学校(質問の内容)
- ・情報の入手法は?
 - ・火山噴火による目に見えない害を及ぼすものは?
 - ・火山灰の人体への影響は? 防ぐ方法は?
 - ・火山灰を有効に活用して例は?
 - ・避難の際、自動車の使用はよいか?
 - ・噴火のあと、復旧にはどれくらいかかるか? など

【感想】

- ・岩手山が噴火するということは怖いので、避難場所や避難経路を確認しておきたい。
- ・岩手山は怖いだけだと思っておいたが恵みもあり、ますます好きになった。
- ・今まで、岩手山噴火を真剣に考えてこなかったが、事前にどんな備えが必要か分かった。
- ・火山噴火がイメージできた。まずは、自動車をしっかりやっていきたい。

滝沢市立柳沢小中学校の訓練の様子

防災教育の推進とともに、学校危機管理マニュアルの見直しについても検討【管理職、気象台、教育委員会】



ほくは防災訓練で地震があったときに頭を守るのが大事なことが分かりました。寝るときに、棚の上に花とかを置かない、食べ物とか飲み物とか三分準備することが分かりました。棚が上に行くから下に行くことも分かりました。一人でおうらにいて山が噴火したら隣の人とかに行くようにしたいです。(1年男児)

ほくが一番心に残ったのは、担架作りです。僕たちは上着で担架を作りました。人数はいるかもしれないけど、身近にあるものでできるし、簡単なので大事だと思います。噴火した時は、あわてず自然と動きたいと思いました。それだけでなく、今から心や物の準備をしようと思いました。(5年男児)

僕が防災訓練に参加して考えたことは、中学生がどれだけ動かなければいけないか、ということです。応急処置では、止血することや、腕の固定などの細かいことは、中学生が率先してやらなければならないと思います。被害が多ければ、やることも多く人手が足りなくなるとも思います。その時にすぐに動けるようにしなければならぬと思いました。

訓練を通して、家族で話したことは、牛についてです。避難するときどうするのか、と聞いたら「噴火したらまず家族は逃げる。状況を見ながら、家に戻ったりして牛の世話をする。(噴出物がいつくるかどこまで来るかわからないので、備えるにこしたことはない)と言っていました。避難するときは、家族で協力しなければならぬと改めて思いました。(1年男子)

滝沢市立滝沢第二中学校



8月2日大船渡市立第一中学校生徒会との交流会。地域防災をテーマに高校で話し合いました。

大船渡市立第一中学校の生徒会のリーダー交流会で、「地域防災」をテーマに話し合う。自校でも、生徒会を中心に地域の防災活動に取り組んでいくこととなり、学区内の4自治会の協力の下実施した。



9月1日、滝沢二中学区の4自治会で一緒に防災活動を実施した。自分たちの地元を元気づけたとき、滝沢村の立地を考えると岩手山噴火の危険性を考えざるを得ない。学生執行部は岩手大学を訪問し、詳しくお話を聞きました。それを元に、自治会に協力をお願いし、学区内一斉の防災訓練が行われた。初の試みであった。有事の際、中学生が担う役割は大きい。地域の方々からは「中学生の若さを見るだけでも元気をもらえた」「頼もしい限り」などの言葉をいただいた。

「復興教育 ひとつくり」(滝沢第二中学校)リーフレットより

滝沢市立滝沢第二中学校



岩手日報より

中学生が避難所開設の準備を行い、受付などを担当



地域の方々と共に、防災訓練に参加

「万一のときは、避難所の運営に積極的に携わりたい。」(中2女子)

「まずは、自分の命を自分でしっかり守る。その上で、地域のために何ができるか、これからは生徒たちと探っていきたい。」(校長)

→次年度は、自治会と協力の下、地域での防災活動を実施する予定

H25 県防災教育実践交流会(2月14日)

1年間の取組のまとめ、次年度に向けて

- 復興教育推進校・県立学校から
 - ・岩手町立川口中
 - ・大野高校、前沢明峰支援学校
- 実践的防災教育総合支援事業の成果から
 - ・大槌町立大槌小学校
- 防災教育に係る学校訪問校から
 - ・一関市立本寺小学校



- 学校・家庭・地域が連携して、防災教育をどのように進めるか。釜石をはじめ、全国の先進的な取組を紹介。
- 防災教育の継続が、世代を超えて災害文化の形成になる。
- 「防災教育」=「人間教育」である。
- 本県で推進する防災教育を含む復興教育を取り組む意味を再確認。

講師 群馬大学 金井准教授

防災教育の取組状況(学校訪問、参観等から)

- (1) 十面
- ① 「いわての復興教育」において、防災教育を位置付けて推進している学校が多い。
 - ② 自校の防災教育のあり方を見直すとともに、管理面での改善を図っている学校が増えている。
 - ③ 学習や訓練をとらえて、児童生徒の自他の命を守る力を身に付けるとともに、支援者としての防災意識が高まっている。
- (2) 一面
- ① 学校、地域による取組の差が大きい。
 - ② 地震・津波災害以外の災害についての取組が十分に行われていない。
 - ③ 学校・家庭・地域との連携の強化を図っていく必要がある。

故郷を愛し、その復興・発展を支える「人づくり」 ～安心で安全な社会を築いていく～



「100年後まで伝えよう! 東日本大震災のこと」(大船渡市立吉浜中学校)



「被災地のためにできること」(花巻市立花巻北中学校)



「自分たちで考える」(地域と連携した活動) (大船渡市立越喜来小学校)



「宮城・内陸地震を風化させない!」(一関市立本寺小学校)



「地域とともに総合防災訓練」(滝沢市立滝沢第二中学校)